

「若者が主役!地域まるごと活性化事業」

読み聞かせ隊参上～自作の絵本を手に～

読み聞かせ隊参上 実行委員会

笠岡市笠岡中央公民館

I 事業の概要

自分たちで手作りの絵本を作り、その絵本を持って、地域の保育所・幼稚園・小学校に読み聞かせに行くという事業である。

絵本づくりの過程で、公民館や地域ボランティア・行政機関と交流し、いろいろ試行錯誤しながら、楽しく活動してきた。

人口減少に悩む笠岡市の地域課題に対して関心を持ち、将来、地域活性化の担い手になるような若者を育成するという趣旨で事業を展開している。

昨年度からの継続事業だが、2名を除いてメンバーは一新している。

参加高校生 9名

岡山県立笠岡商業高校 3年生6名 岡山県立笠岡高校 2年生1名

岡山県龍谷高校 3年生2名(継続)

II 具体的な事業内容、活動の様子

① 7月 山根先生(就実短大講師)による講義

絵本とは何か、どんな絵本がいいのか、そして読み聞かせの仕方など「絵本の基本」を分かりやすく講義された。

将来、保育士を目指している高校生も多く、興味深く聞いていた。

② 8月 笠岡公民館所属「読み聞かせボランティア」による「読み聞かせ」練習

2人ずつに分かれて自分の好きな絵本を読み、ボランティアに指導を受けた。簡単だと思っていたが、「読み聞かせ」の難しさを実感した。

③ 9月 笠岡市定住促進所長黒田氏による「笠岡市の課題」についての研修

地域課題と現状について説明していただき、併せて笠岡市で繰り返されている幾つかの若者の活動にもふれて、高校生の活動に期待を寄せられた。

④ 10月 高本さん(昔話の語り手)による「笠岡の民話」の語りを聞く

心に染み通るような語り口で、感銘を受けた。

笠岡市の陶山地区に伝わる「陶山の民話」を

紹介していただき、自分たちが作る絵本に

ふさわしい民話は何か考え、

『きつねのよめいり』に決定した。



「陶山の民話」

陶山在住の惣津章雄さんが地域の民話を集めて収録した民話集。



⑤ 10月 自分達で作る絵本『きつねのよめいり』の構成を決定

原作は文章ばかりなので、いくつの場面に分けたらいいのか、みんなで考えて13場面に分けることに決定した。

⑥ 11月 絵本の絵・文・構成を考える

大本さんが描いた絵コンテをもとにして、各場面に乗せる文を考えた。原作の雰囲気を残しながら、絵本にふさわしい文を考えるのは難しかった。



⑦ 12月 絵の色付け

大本さんが描いた下絵にみんなで楽しく色付けをした。1枚、1枚出来上がっていくにつれて、達成感に包まれた。



⑧ 1月 ダンスのビデオ撮り

県の生涯学習課の的場さんの指導でダンスのビデオ撮りをした。最初は恥ずかしがっていたが、さすが現代の若者、最後はばっちり決まった。

⑨ 1月 絵と構成、文の最終決定

絵の上に載せる文をみんなで読み合わせをしながら、最終確認をした。

⑩ 2月 絵本『きつねのよめいり』の印刷・製本

自分たちで考え、手作りした絵本には格別な愛着がある。

⑪ 2月 笠岡保育園・まや保育園で、『きつねのよめいり』の読み聞かせをする。

⑫ 2月 県の「若者が主役！地域まるごと活性化事業」報告会で活動内容を発表。

⑬ 3月 笠岡小学校・笠岡幼稚園で『きつねのよめいり』の読み聞かせをする。

⑭ 3月 プロジェクトの修了式（出版記念パーティ）

Ⅲ 成果と課題

○成果

高校生は自分たちで考え、手作りした絵本の完成に喜び、さらに、読み聞かせに行くことで、地域貢献への成就感を味わった。

公民館と行政・学校・短大・ボランティアとの連携がうまく行き、高校生をサポートする体制が確立した。

9ヶ月に及ぶ活動を通して公民館と高校生の絆が深まった。このことは今後の公民館活動にとって大きな宝となる。

○今後の課題

今回の活動が一過性に終わることなく、高校生が将来、地域活動の担い手になるよう、今後とも公民館がサポートを続ける必要がある。